

審議会等の会議結果報告書

課所名

都市計画課

会議名 第3回 諏訪市都市計画マスタープラン改定委員会

開催日時 平成30年5月17日(木) 13:15~14:45

出席者

委員:伊藤三和子、岩波健一、蟹江弓子、神山裕子、北原美智子、倉田直道、宮澤節子、請地貴史、
矢崎竹代、矢崎知広、山谷恭博、渡邊芳紀 12名
諏訪市:小松建設部長、金子都市計画課長、下澤計画係長、百瀬主任、武井主任
傍聴者:なし

資料

◇事前配布資料
【資料1】諏訪市都市計画マスタープラン(素案)
【資料2】諏訪市立地適正化計画(素案)
【資料3】居住誘導区域・都市機能誘導区域(案)
【資料4】スケジュール表(平成30年度)
◇当日配布資料
次第、委員名簿、第五次諏訪市総合計画概要版、諏訪市まち・ひと・しごと創生総合戦略概要版

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

1 開会

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1)都市計画マスタープラン

・素案(H30.5.17現在)

(2)立地適正化計画

・素案(H30.5.17現在)

・居住誘導区域(案)、都市機能誘導区域(案)

(3)今後の予定について

(4)各委員から意見・感想等

4 その他

5 閉会

[質疑意見一括]

3 協議事項 (4)各委員から意見・感想等

委員:諏訪湖周で合併の話が持ち上がりつつある。この計画は、もし合併になった場合にも適用されるような考えが入っているのか。

事務局:合併については、協議会の設置はこれからということで、現時点ではまだ本計画に合併を考慮していない。

委員長:一般的に、他の自治体の事例を見ると、合併することによってそれぞれが持っていたマスタープランの整合を取るようして、市全域のマスタープランに作り直している。検討してきたことがまったくなしになるということはないと思う。特に地区ごとに計画を立てており、この地区ごとの単位というものは合併しても残るものであり、その辺りも変わらないと思う。

委員:駅の橋上化の問題が挙げられているが、国道の踏切をなくすような計画を盛り込むということはないのか。

事務局:諏訪においては昭和30年頃から話が挙がっており、今まで2度ほど連続立体交差事業が盛り上がった時期がある。その間に、下諏訪境から四賀の赤羽根辺りの区間を連続立体交差にして、線路で分断されている東西

の街を一体化しようという話が何回か挙がっている。財政的な諸事情もあり、実現はしていない。また、金子市長になってから、「諏訪市駅周辺あり方検討会」が立ち上がるなかで、駅の橋上化は具体性があるということで、話題になってきている。駅の橋上化と連続立体交差事業を並行して検討している。まだどちらを選択するという段階にはないため、本マスタープランにおいては両方検討するという記載になっている。踏切の問題は連続立体交差事業でないとは解決出来ない問題で、駅の橋上化をしてしまうと踏切の問題は課題として残るため、そのあたりの課題解決も含めて検討するという形でマスタープランには記載しているため、ご理解いただければと思う。

委員: バイパスが出来ると国道ではなくなる。そうなる踏切をなくすことはほとんど不可能に近くなるのではないかと思う。バイパスが出来る前に是非検討して欲しい。

事務局: 今、駅東口の開発が進んでいる。また、中浜2号線から湖周線への柳並線の延伸が実現する話になってきている。そうすると当然、交通結節点として駅西口の開発をやらなければいけないのかなという感じが出てくる。そうすると、駅の問題が話題になってきているため、その段階で踏切の問題も挙がってきている。バイパスの開通を待って踏切の問題を解決するという訳にはいかないため、これから議論が深まっていくと認識している。

委員長: 立地適正化計画の背景として、日本の場合、地方都市では特に車社会が進み、街が大きく変わってきているという事がある。車社会が過度に進んだなかで、昔の街の様に、歩いて暮せる街にもう一度少し戻したらどうかという事である。車を全部否定する訳ではないが、その時に歩行と公共交通を再評価して、あまり車に依存しなくても移動出来るような街にすべきではないかということである。

施設の誘導という話があるが、これも歩いて行ける所に買い物が出来る場所があったり、お医者さんがあったり、そういう街にもう一度見直していったらどうかということが背景にある。

私が子どもの頃から比べると無秩序と言っているほど市街地が拡散してしまっているため、それをもう少しコンパクトに、生活利便施設がある所に出来るだけまとめて居住するよにという都市を目指そうというのが、この立地適正化計画だご理解いただき、それぞれ見ていただくと分かりやすいのではないかと思います。

先ほどバイパスや連続立体交差事業の話などがあったが、一般的には車は今がピークで、これからどんどん減っていく。それは、結果として渋滞解消にも向かい、そこに公共交通がもう一度整備されると、さらに車に依存しなくても暮らせるようになって考えている。そういう意味で言うと個人的な意見だが、連続立体交差事業というのは、車社会をこれから迎えるという時に必要なものであり、その議論は限られた所で成立するものであって、地方都市ではそれについての議論はそれほどしなくていいというのが我々専門家のなかでは言われている。それよりは、いかに暮らしやすくするために歩行者にとって気持ち良く歩ける快適な街を作るかということの方が大事だと言われている。

今回のマスタープランや立地適正化計画で、その辺りも踏まえて諏訪市が将来どうあって欲しいかという所を考えていただき、マスタープランに反映していくことが大事だと思う。

委員: 年数が経つにつれて、街は進化をしたり退化をしたりしていると思うが、基本的に現状を踏まえた中で、そういうファクターが入っていないと、街の文化だとかそういうものについていけない計画が出てきてしまう恐れがあるように思う。資料1の P33 に『「輝くSUWA」を創生するための社会基盤が整った 諏訪市』『「ものづくり」を基軸とした地域性』と書いてあるが、基本的に諏訪の工業出荷額はかなり下位になり、茅野では 2,000 億円であるのに対し、諏訪は 800 億円という状況がある。それに引き換えて、観光商業関連については 1,600 億円くらいある。諏訪はお金の面から、歴史的状況から考えてみると、商業観光都市である。しかし、相変わらずものづくりということを基盤にものを考えていくということは、ある面ではミスリードになってしまう可能性もあるのではないかと。

事務局: ご指摘については、経済部等とも調整をするなかで工業についてある程度記載をして欲しいという意見があり、載せさせていただいた。今言われる様に観光・商業の方が、ウェイトが高いという所も押さえてはいるため、その辺りはバランスを見た中で記載させていただき、諏訪ブランドの諏訪という部分については、現状を踏まえるはするが、記載としてはこのような形にさせていただければと思う。

委員: その辺の使い分けを、計画書を見た方が出来ればいいが、やはりどうしても東洋のスイスであるとか、そういう旧態然とした意識が我々の年代を中心にまだ頭の中に根強く残っている。

他にも気になる所があるが、東バル跡地が工業の振興の項目に入っている。あれは工業ではなくコンベンションセンターとして誘致してそれが成功したということであって、工業とは言い難いような気がする。工業に分類して記載するのではなく、東バル跡地についてはコンベンションとして、商業都市としてのものであるから、変えていかないと、相変わらずイメージは残ってしまうのではないかと思う。誘導したり、ある程度併合したりしていかないといけない素案であるかと思う。ミスリードする可能性がある部分は全体とは言わないが、工業と商業でこれだけ格差がついたものを、強引に諏訪のイメージとして工業を残すことの方が、弊害があるような気がする。

事務局: 東バル跡地に関してはご指摘のとおりのため、記載位置については確認させていただく。工業についてミスリード等の話があったが、これは経済部ともう一度調整させていただき、記載のニュアンス等変えられる部分があれば、少し変えていきたいと思う。

委員: ミスリードと決めつけている訳ではなくて、可能性があるということである。

委員長: 産業について、自治体単位の数字と産業のあり方というのは、きちっと考えておかなければいけない。諏訪市といった場合、諏訪地域と捉えた時には、かなり広がりを持ったエリアの中で、産業も地域間の連携の中で成立していくものもあるため、最終的な額だけで、単独の自治体で語ってしまうのは無理があると感じる。「諏訪市駅周辺あり方検討会」で行われる議論のなかで、必ずしも諏訪市だけをとりてそういう話をしているということではなく、少なくとも諏訪地域のものづくりを再生していく拠点としての機能をそこに持たせてもいいのではないかなという議論がされている。そういう意味では産業のあり方も、今のお話のような視点だけで議論するのではなく、もう少し広域的な捉え方で議論した方がいいと感じている。

委員: それぞれの自治体で少子高齢化が進んでいけば、日本全体の人口が減ってくる。諏訪地域全体の中で諏訪市はどうあるべきかということ考えた時に、合併については計画の中に入っていないということだが、人口減少の中で、諏訪地域だけがこのままということはなく、必然的に合併を避けては通れなくなる。その時のための諏訪市というのは、地域の産業構造だとか、地域構造の中で、どういう位置付けをすればいいのかということも今から考えておくことが必要だと考える。その場合、諏訪は商業として生きていく。例えば諏訪で工場を拡充・増設しようとした場合、地盤が軟弱なため非常に建築費がかかる。そのため、茅野にどんどんシフトしてしまうことは仕方のないことである。その辺を踏まえたときに、諏訪は工業が空洞化してしまう。そういう中で諏訪市が将来を見越した時に、諏訪地域の中で一体どういう位置付けの街なんだということ、今から少しショーウィンドウ的に出しておくということがある程度必要ではないかという気がする。現状では3市2町1村があるが、茅野市は土地の利もあり工業系の用途が充実しており、将来もそういうことになろうかと思う。岡谷が今、商業販売額が1,100億位あるため、どうなるかはわからないが商業ということになると、そういう中で諏訪はどういう位置付けでいったらいいのかということ、現状としては考えざるを得ない。そういう時に、商業都市ということのある程度全面的に出していった方が、将来の諏訪の色々なまちづくりのためになるのではないかという気がする。

委員: 諏訪市の街を考える時に、諏訪市のことだけを考えたのではないかなと思う。諏訪の人たちがどのくらい市外の工場へ勤めているかということは実際にはよくわからないが、かなりの方々が周辺の市町村に移動をしていると思う。諏訪は商業・観光都市という話だが、実際には茅野に行って茅野の工業を助けているという人もたくさんいる。そうすると、移動ということも市内の交通網だけを考えては市外への移動が出来ず、どうしても車を使わないといけないので、その辺を考慮していかないといけないのではないかな、将来的にその状況は続いていくのではないかなと思う。そういうことも考えていかないといけないのではないかなと思う。

委員長: 今、都市のあり方もそれぞれの自治体が単独にというより、すべてにおいて連携の時代に入ってきている。今までは全ての自治体が自分で全てのものを持たなくてはならないというのがこれまでの発想であったが、今はだんだん変わってきている。それは産業においても同じで、産業・工業といっても工場だけを表すのではなく、特に最近産業の振興の上で非常に大事だとされていることは、例えば産業のリノベーションといった、これからの新しい時代の産業をどの様に考えていくかということも非常に大事である。そういった意味での機能というのは十分諏訪にも立地するだろうし、そういう役割を諏訪は果たしていけるのではないかなと思う。そういう意味で、

産業というのも1つの分野に特化するというより、それぞれがバランスの取れた産業構造を持つということも大事になってきている。さらに広域的にみると、それは連携で、それぞれがそれぞれの役割を果たすという全体の構造になってきており、諏訪の役割を考えていかななくてはいけないと思う。

委員: 諏訪市に移住することが決まった方がご相談に見えた。今度小学校1年生に上がるお子さんがいる方で、諏訪地域の中でどの地域に住むのが一番安全でよいかと、質問された。誘導区域の話が頭に浮かび、このエリアという頭はあった。しかし、誘導区域に今の段階では大きな商業施設や病院があるということではない中で、やはり説明が出来なかった。

また、今日ここに来るまでの間にバス停が3つあり、2つはベンチのないバス停で、待っているお年寄りも縁石や壁に腰掛けていた状態だった。それを見た時に、今自分は当然自由に運転出来るが、いつかはこういう公共交通機関を使うと思うと、歩道に無理矢理バス停を置いている所もあり、なかなか難しいとは思いますが、拠点になっていくのであれば、バス停にはベンチがあり、ベンチの周りに少し緑があればそこがバスに乗る人だけではなく、犬の散歩をしている人も、そこで座って、コミュニティが生まれたいいなと思う。1つのベンチがそのように繋がればいいなと、今日初めてお年寄りの目線で見ることも大事だなと実感し、そういう声を聞くことも必要だと感じた。

委員長: 今のご指摘は具体的な細かいことだが、その延長には諏訪の街がすべての世代に、特に高齢者に優しい街になるためにはどうしたらいいかということも、1つの手掛かりになると思う。交通弱者と呼ばれている人達、特に免許を持たない人達が増えてきている。そうした時に車を使わない人達にとって、移動がしやすい街になっているかということが大事になる。特にこれからの諏訪を暮らしやすい街にと考えると、色んな所を考えていかななくてはいけないのではないかなと思う。そういったものがマスタープランに反映されていると、これからの時代のマスタープランになっていくのではないかなと思う。

諏訪市ではとりあえず歩道は付いているが、少し勾配が付いており、ガタガタしているため、高齢者が快適に歩けるかと言うと難しく、歩行者空間はかなりひどい状態ではないかなと私は感じている。歩行者と高齢者に優しい街ということと言うと、その辺りを考えていかななくてはいけないと個人的には感じている。

委員: 駅前座っていいよという看板があるが、他を見るとベンチがなく、座れる場所がたくさんあってもいいなと感じた。母親と花火を見に四賀からゆっくり歩いていったが、道中に座る所がなく、その時本当に感じた。

それと、湖岸武津線沿いの病院には諏訪の人達だけでなく、市外の方も患者さんで見えられ、病院は混んでいる。ベンチがないため、病院の表に立って待つらっしゃるということがお医者さんに目立つため、街中にベンチがあると良いと思う。諏訪中学校の子ども達が卒業記念にベンチを作り、これから色んな所に贈ろうかなという話も出ている。お年寄りや子どもが住みやすい街に、まずベンチからしていただきたいと思う。

委員: コンパクトシティにはやはり移動手段というのが必須の条件だと思うが、先ほどの話のように他の地域に車で通うということは避けられない。そこまで車を少なくしようということではなく、暮らしている所はほぼ自転車か歩いていける街を考えた時に、近場だったら車に乗らなくても便利、メリットがあるという仕組みを作らないと、バスを2~3本増やした所で、あまり活用されないのではないかなと思う。今市でも、かりんちゃん子バスを運行しているが、パブリックコメントのアンケート結果を見ると、生活では電車やバスをあまり使っていないということである。経済的なものも絡んでくるが、やはり、ちょっとした所なら車を使わない方がメリットがあるという仕組みを長年かけて作っていくことも大事だと思う。

委員長: 立地適正化計画については、国も公共交通の計画とワンセットで考えなさいということも推奨しているため、そこは非常に大事ではないかなと思う。今のお話を聞いて諏訪市だけの話ではないが、車社会が進んでしまった結果、公共交通が非常に衰退してしまった。だから結果として利用していないということもあり、かなりドラスティックに公共交通の利便性を向上させないと、いつまで経っても車に依存した社会が続く。公共交通も従来の大量輸送手段ではなく、もう少し小回りの効く小規模な人達の移動手段として考えていかななくてはいけない。選択肢がないなかで、仕方なく車を利用せざるを得ない状況になっていることだろうと思う。これからこのマスタープランは20年先を見据えた将来の街の姿を描くため、その辺も考えていただく必要があるかなと思う。

委員：小学生が歩いて通う道路に歩道がないことがいつも問題になるため、まず居住誘導区域内で歩行者に優しい道路を充実させて欲しいと思う。ただ、そういう事が諏訪市の発展にどう繋がっていくかとなると、逆に足かせになってしまうのかなと考えない訳ではないが、現在居住しているものをもう少し住みやすくして欲しいと感じる。

それと、諏訪湖サービスエリアからのスマートインターチェンジのアクセス道路に関して、地区の会議に初めて出席した。道路を通しさえすれば良いということではなく、諏訪にマッチした開発計画にして欲しいと感じた。どうしてそこにそういうものを作るのか、どのような形にすれば皆が利用したくなるのか、そういう所をもう少し考え、広い視点で見る必要があると思った。

委員：コンパクトシティということで、ある程度高齢の方が住みやすい地域、また、よそから来た人が他市町村と比べて諏訪に住みたいというメリットがどこにあるのかが、これから考えていく中で大事ではないかと思う。その中で、歩いて行ける範囲にまず生活に必要な最低限の施設がある、昔は一つひとつの部落の中にちょっとした商店があり、雑貨屋さんがあり、その村の中だけで日常の生活が成り立っていた。必要な物があればバスに乗って、上諏訪駅周辺に買い物に行くという形である。車の話になれば、自家用車を使わずに生活が出来ていた環境が、結局自家用車を使う様な生活になってしまったということになると思う。まず、それぞれの地域の中で最低限暮らせる様な環境づくり、またそこに歩いて行けるような、道、歩道の整備が必要になると思う。

また、学校も地域の拠点と成り得る建物の1つだと思うが、無計画な宅地開発のような形になり、学区としてもまとまりがなくなっている状況にある。適正な宅地開発ということで、ある程度地域のコンパクト化、この地域はこの範囲、その中でやりくりしましょうという締め付けも必要になってくると思う。

先ほどかりんちゃんバス等の話があった。やはり便利に使えないから使わない、逆に言えば使い方をどこまで見ていただいているのかなという気もしている。子どもが岡谷、下諏訪に通っているが、他地区とのバスの乗り継ぎの便は朝夕に関してもなく、電車に乗るために上諏訪駅まで車で送迎している。それが結局車を使わざるを得ない状況であり、それは良い時間帯に公共交通機関があれば省ける。そういったことも含めて、現時点で出来ることをしていただくのであれば、かりんちゃんバスの適正な時間の運営や他市町村との連携だが、正直お金の面では当初は赤字になってくると思う。それを少し我慢していただき、便利に使えんということを周知出来るようになれば、乗る人も増えてくると思う。長い目で公共交通機関の利用率アップを考えていただき、それによって地域で済ませること、公共交通機関を使って必要な所に出ていくということが出来れば、車の使用も減ってくるのではないかと思う。

委員長：今おっしゃった将来の地区のイメージのようなものは、実はコンパクトシティを具体化した時の街の姿がまさにそういうイメージを描いている。それはある種昔に帰るような感じにもなるが、逆に昔の街の良さを再評価しているということもあり、それを新しい形でどのようにしたら実現出来るかということが、世界中同時多発的に起きている。

委員：歩道は歩くということもだが、自転車の面でも改善して欲しいと思う。小学生の子どもが近くの子の家に行くにも、自宅の近くの道路では自転車に乗ってはいけないと小学校からも言われている。そこを通ってはいけなくなると、そんなに遠くの家ではないのにわざわざ遠回りをして行かなくてはいけなく、遠回りをする道を教えて、そこは少し暗い場所や歩道がない場所があり、帰ってくる夕方頃には街灯もなく、危険かなと思うと近い場所でも車で送り迎えしている現状がある。また、今の子どもたちは習い事をやっている子も多いが、やはり防犯面でも歩かせるにはどうかという家が多く、そういう面が良くなっていけばいいなと思う。

あとは、今回立地適正化計画に上社周辺が入ったということをありがたく思っている。観光客が楽しめる上社周辺に整備されていけばいいなと思う。

また、農地整備の面で田んぼにある石垣等は崩れている所がたくさんある。石垣を直し、昔ながらの風景を残したいが、金銭的に難しく、なかなか整備出来ないという方がいて、そういう面で補助金などがあればいいと思う。また、赤ちゃんからお年寄りまでが生活しやすいまちづくりが大きな目標だが、亡くなった後の墓石の問題やお骨をどこに納めるかという問題を考えてしまう。この素敵な諏訪の街を望みながら亡くなられた方をご供養出来たらなという面も考えてしまった。

委員:安全・安心のまちづくりと言うと、皆さんが身近に感じられるのは、犯罪・交通事故だと思う。交通面から言わせていただくと、高齢者の交通事故は毎年全体の約4割を占めている。当然、安全教育や安全講話をさせていただきながら、高齢者の交通事故の抑止を図っている。現在、免許証の自主返納制度があり、警察署に毎日数名の方が免許証を返納しに来られる。ただ、長野県の場合はどうしても車を杖代わりに使わなければいけないという方も中にはいらっしゃる、免許証を返したくても返せないという方がいらっしゃる。先ほどかりんちゃんバスという話も出たが、経費の面を抜いて言わせて頂くと、デマンド交通のようなものをもっと充実していただければ、免許証を返しても高齢者の方が生活しやすいまちづくりが出来るのではないかと考える。

また、諏訪市は観光地であるため、県外から多くの観光客の方がいらっしゃるが、他県の方が走りやすい道づくりというのも当然必要だと思う。

あと、高齢者と言っても車を運転する方だけではなく、歩いている方も事故の犠牲になってしまうことがあるため、街灯の設置等で明るいまちなかを作っていただくということも重要だと思う。

委員:コンパクトなまちということにマイナスのイメージはない。現在うちは老老介護をしており、そこに息子が通うという生活を5年している。ではどこに買い物に行くかという、ドラッグストア1つにしても我々若い人間は近くの所に行けばいいと思うが、高齢者は結局決まった同じ店に行く。それはなぜかという、並んでいる品物を自分が知っていて、それに沿ってあそこに行けば何があるというのを分かって買い物をしたいからである。そのため、わざわざ自分の息子を呼んで、いつものお店に行く。だから歩いて行ける、上諏訪駅前のスワプラザ等がなくなった時に高齢者は苦しんだらうと思う。だからこそ今考えるのは、コンパクトシティというのは大事な条件だと、自分は賛成だと感じながら見ていた。また、お年寄りには生活にかかるわずかなお金をもったいないと思う感覚がある。わずかなお金をもったいないと思う人達にしてみると、コンパクトシティに例えば路面電車の様な乗りやすいものも、本当に考えなくてはいけないなと思った。

私の親戚で青年会議所の時に諏訪地域を1つにしたかった男がいた。諏訪を1つにした時に、一つひとつ地域の中では多少不便になることもあるかもしれないが、諏訪が1つになることによって得られるものはたくさんある。そういうことを子どもの頃からずっと聞かされてきたため、そういう大きな流れの中で言えば、諏訪という所は文化の街だという特色を付けられたのかもしれないと思う。しかし、それを今言っても仕方がないため、そうなるやっぱりお年寄りにもコンパクトシティは賛成だと思った。

学校の面では、学校というのは住む地域にとって大事なものだと思う。教育にお金をかけていくことも大事だろうと思う。学校づくりに携わったことがあり、県外の中高一貫校等をいくつも視察した。長野県の学校では、会合をやる時にまずお客さんの駐車場をどうしようかと考える。仕方がないから職員が出て、ここに停めてくださいと誘導しても溢れてしまう。しかし、県外に行った時には1つの学校に理科室や体育館が複数あり、県そのもので大きなお金をかけていた。「駐車場はどこに置いたらいいか」と聞くと、「どこでもいい」と言われた。行ってみると、駐車場が山ほどあった。だから、諏訪市の教育委員会も本当に努力して下さっているとひしひし感じているが、お金をかけなくてはいけない所にかけていくことは大事だと思った。学校だけではなく、文化の拠点がどこかにあるのも大事ではないか、そういうことも盛り込んでいけたらいいなと感じた。

副委員長:諏訪で育ち今も諏訪に住んでいるため、やはり諏訪が大好きであるということが前提にある。大学進学等で子どもが市外へ流出し、戻って来て欲しいと思ってもなかなか戻って来ないというのが現状である。人口流出、高齢化社会という中で子どもに優しい街というのが基本ではないかと思い、活動している。また、子ども達だけでなくお年寄りも歩いて行ける所に生活圏があるという事が基本ではないかと思っている。

私の住まいは消防署の近くの道路が開いた場所で、非常に便利になってきた。車があると、ほんの少し離れた場所でも車で行ってしまおうという事が自然になってしまう事が怖いと思う。都市が便利になるということと同時に、失ってはいけないものがある。人が交流し合うことで解決出来る問題がたくさんあるため、それはハードとソフトの両方が合致して動いていかないと、良い都市にはならないのではないかと思う。最終的には私は人を大切に、一人ひとりがここで生活出来る基盤があるということが大事だと思う。

この間北小路からずっと駅前周辺を3時間くらい歩いたが、本当に空き家が多い状況だった。確かに車も置けな

い、若い人と同居するとすれば大変だなということを感じたが、まだまだそこを大事にして生活している色んな方達がいる中で、今ここで止めないとさらに空洞化してしまうのではないかと危機感を感じた。だからまず私は知るということが大事ではないかなと感じた。このマスタープランもすごく大事だし、なぜこのマスタープランを20年後までしていけないといけないのかということをお皆さんに伝え、ここに関わらせていただいて責任持って諏訪を知りたいという気持ちになったので、計画が計画で終わらないようにしなくてはならないと思っている。また、20年前マスタープランが作られた時はどうだったか、そこからどのくらい変わったのかということをお常に頭に入れておかないといけないのではないかと考えた。変わったことには何か原因があり、これから20年後を考えるとしたら今大事にしなければいけないものは何かということをおもう少し勉強して、私たち皆が考えるような仕組みも大事ではないかと考えた。

委員長: 20年前のマスタープランと今検討しているマスタープランの違いは、おそらく暮らしという視点からもう一度この計画を見直すことが大事ではないかと考えている。特に今の時代はいかに豊かに暮らしていける街を作っていくかということが1つの究極的な目標になるのではないかと、そのためのマスタープランではないかと思う。また、観光について、暮らしている人たちが暮らしやすく、快適に思っていない街というのは、外から来る人にとってもつまらない街になろうかと思う。諏訪でも、暮らしている人たちを中心に特に高齢者にとって、歩くということをおもう少し考えなければいけないという話があったが、観光にとってもそうである。諏訪に来て個別に何かを見るということもあるが、街を楽しむということも観光にとって大事な視点になってくる。そういうことを考えると地元の人にとって暮らしやすい街を作るということは、観光客にとっても過ごしやすい街になってくるだろうと思う。そこをお意識していけば、素晴らしい計画になるのではないかとことを実感した。

あと、キーワードとして「健康」がおもう少しあればいいなと思った。諏訪はそういう資源も揃っているので、まず健康で暮らせるということがすごく大事になる。先ほどお話しした歩くということには必ず健康が付いてくる。また、歩くことによって直接人に会う機会がどんどん増えるため、交流という視点でも大事である。歩くというのは、単に移動手段として車から徒歩に替えるということだけではなく、それだけ暮らしが豊かになる、そういう要素も入っているということも理解して議論する必要があると感じた。